

はたのうニユース拡大版



はたのうHPはこちら！

「校長挨拶」

地域の皆様方には、日頃から幡多農業高校の教育にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。農業高校にとって収穫の秋は特別な季節ですが、今年はコロナウイルスの関係で例年と違った状況となっております。

さて、例年11月に実施の『はたのう市場』について、既にお問い合わせをいただいております。本年度につきましてはコロナウイルス感染症予防の観点から、来校者を保護者限定として実施させていただきたく存じます。地域の皆様方に温かく育てていただいた『はたのう市場』であり、また楽しみにお待ちしております。大変申し訳なく存じますが、ごつご理解をお願い申し上げます。

現在、本校では春の休校明けから、行事等の大幅な見直しを行いながら学習を進めております。このような時期ではありますが、体験からの学習を大きな教育の柱と考えており、学びの機会を確保しております。今年の夏休みも生徒は毎日のように登校し、作物や家畜の管理に汗を流しました。その成果をお見せできる機会が、『はたのう市場』であり、ハムやシクラメン等、自信作である生産物を販売できないことを、生徒も本当に残念に感じております。しかし酷暑のなかで頑張っ

た経験を通し、314名の生徒は確実に成長し、次の目標に向け歩み始めております。近い将来、コロナウイルスが終息した折には、新たな形の農業高校生らしい活動を皆様方にお見せしたいと考えております。

時々、卒業生や地域の方から、懐かしかった高校時代のお話や幡多農に対するご意見をいただくことがあります。現在学校では、新しい生活様式が求められる中、生徒の減少という大きな課題を抱え、地域の学校としての役割をどう果たしていくかを考えております。

これからも、地域を担う若者と幡多農業高校に対し、ご支援いただきますようお願いいたします。

【生徒会長より】

私たちが栽培、収穫し、そして販売まで行う毎年恒例のはたのう祭が、新型コロナウイルスのため従来通り実施することができなくなりました。例年だと、多くの方が本校の生産物を買いにきて、私が初めてこの行事に参加した時は、あまりの人の多さに感動を覚えました。しかし、今年度は地域の皆様ではなく、保護者限定の販売となります。また、クラスも催しも三密を避けるという観点から、中止となりました。色んなイベントや行事が中止、

もしくは簡素化され、今年が最後の年である三年生にとっては悔しい限りだと思います。しかし、せめて来ていただく保護者の皆様には、来てよかったと思ってもらえるようなはたのう市場にしたいと思います。

今回の市場では、地域の皆様には販売することができませんが、今後も校外での販売実習等は行っていきますので、その時はぜひよろしく願いいたします。

【はたのうナウ】

それでは、『最近のはたのう』について、近況報告を。最近では農業にもICTがどんどん入ってきてまして、園芸システム料では、日々の管理作業をクラウドに保存し、データの閲覧を誰でもできるようにしてきました。アグリサイエンス料では、牛に専用の首輪をつけて、どこにいても牛の咀嚼回数や体温がスマホで確認できるようになったり、グリーン環境料では、ドローン講習が恒例になってきたりと、農場がどんどん進化しています。

一方、生活コーディネート料では、ローソンのコラボ商品を開発したり、先生方がコロナ対策で防護衣や手作りマスクを作成してくれたり、どの学科も、『ここぞでしかないこと』を学んでいます。それでは、各料の近況報告を見てみましょう！

園芸システム料

春先の『インパチエンス嫁入り大作戦』ではたくさんのお世話になりました。おかげさまで、今は生徒の皆さんが帰ってきてくれて、日々シクラメンの管理をしております。草花専攻生はこの時期、草姿を整え、球根に光を当て



てるために、毎日毎日『葉組み』という作業を行っています。とても繊細で根気のいる作業ですが、お客様に喜んでいただけるシクラメンを作るため、日々頑張っています。『はたのう市場』での一般販売はできませんが、普段の日に、園芸棟に買いに来て下さる分にはかまいませんし、販売実習にもいきますので、その時はどうぞよろしく願いいたします。

果樹園では栗の収穫があったり、アケビが大きくなったりと、すっかり秋の装いです。1年生は今、放課後実習でパンジーの鉢上げをしています。これもまた販売実習等にもいきますので、よろしく願いいたします。

そして、平成29年にミニトマトでJGAP認証を取得以降、現在では外部視察等も受け入れ、また最近では生徒がプロの農家さんを対象とした講習会を開催するなど、活発に活動しており、先日は無事更新審査も済ませ、審査員の方からも非常に高い評価をいただきました。さらに、スマート農業への取り組みとして、ラジコン式草刈り機の操縦や、三原菜園での高軒高栽培の視察を通して、現代の様々な農業のかたちについて日々学習をしています。

アグリサイエンス科

アグリサイエンス科では、畜産と作物の二つを大きな柱に農業の学習をすすめ、命の大切さについて学んでいます。今年度は、プレスハムを代表する畜産物加工品の製造が、新型コロナウィルスの影響もあって、販売の機会が少なくなっていることは少し残念ですが、次の新商品の開発に向けて、少しずつですが、今できることを模索しています。

また、一時期頭数が減っていた乳牛は、現在、五頭にまで増え、育成牛も育ち、来年には搾乳できる乳牛は八頭ほどになる予定です。

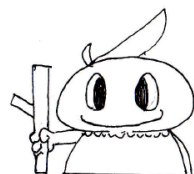


課題研究では、畜産、作物、食品製造、生物活用の四つの班に分かれ、それぞれの班がテーマに沿って研究に取り組んでいます。しかしこれも新型コロナの影響で、校外に出る活動が制限されるなど、今年はこの班も苦慮しているようです。そういった中、畜産班では、将来のことを考え、多くのヤギが飼育できるように畜舎の裏山に放牧場を作ることにしました。それと同時に、乳牛が搾乳する際に音楽を聴かせ、搾乳量にどのような変化が出るのか調査も行っています。音楽ジャンルは様々で、演歌（北島三郎）や童謡、ロック、クラシックなどを聴かせています。これで乳量にどのような変化が出るのか？今から結果が楽しみです。また、作物班では、自家栽培した大豆から豆腐作りに挑戦するなど、少しずつですが、それぞれの班が今できることに取り組んでいます。

グリーン環境科

グリーン環境科で、現在課題研究という授業の中で取り組んでいる内容について紹介します。この課題研究という授業では、4つの班に分かれて取り組んでいます。

①木材加工班
演習林で間伐した材を使って、パソコン台やベンチなど、新製品の開発をしています。



②森林環境班
森林保護につながる活動をしています。林業従事者を増やすにはどうすればよい？人工林を原生林化するよう、針葉樹林を広葉樹林にしていく。有害獣被害をなくすにはどうすればよい？、狩猟フォーラムへの参加などもしています。

③育林班
学校敷地内の山で除伐をして、クヌギ、カシなど、シイタケ原木の苗木を植える環境保全活動をしています。また、種を播いて苗木作りにも取り組んでいます。

④フォレストアッシュ班
木灰を利用した有効活用についての活動を行っています。

宿毛市にある、グリーンエネルギー研究所では、木材を燃焼させエネルギーを作り出しています。そのときに排出される灰を、何かに利用できないか調べています。

以上、課題研究の紹介でした。これ以外にも、大用にある演習林での実習やドローンの講習会、馬路村魚梁瀬の千本山見学実習など学校外での学習も行っていきます。

生活コーディネーター科

〈3年生文旦プロジェクト〉
今年度は新型コロナウィルスの影響で、さまざまなイベントが中止となり、文旦製品を販売する機会が減ってしまい残念です。このような状況の中でも、自分たちができる範囲での活動を行っていかうことを考えています。



これからも文旦の魅力を発信し、残り少なくなった高校生活を悔いのないように過ごしていきたいと考えています。

〈2年生ぶしゅかんプロジェクト〉
プロジェクト開始時からメンバーが増え、現在は7人で活動しています。

今年度は、商品作りをおさらいし、全員がすべての商品を作れるように練習に取り組んでいます。また、既存のレシピの焼き時間や加熱温度を変更して試作を行い、レシピの改良にも力を入れています。

販売実習ができる日を楽しみに、今は自分たちの技術向上を目標に活動しています。

〈家庭科技術検定結果〉

被服製作（和服）	合格者	合格者数	合格率	
2級	合格者	7名	87.5%	
4級	合格者	17名	56.4%	
食物調理	1級	合格者	2名	28.6%
2級	合格者	7名	87.5%	
3級	合格者	1名	10.0%	
4級	合格者	25名	86.2%	

〈外部講師による授業の実施〉

- 3年生 介護実習、茶道、琴、華道、洋菓子、鰹料理
- 2年生 介護実習、手芸、手話

はたのう血液型占い

〈A型のあなた〉

ラッキーアイテムはピンクの花。ピンクのシクラメンを窓辺に飾ると恋愛運 up!

〈B型のあなた〉

ラッキーアイテムはすのこ。すのこを使ったDIYでお部屋をイメチェンすると仕事運 up!

〈O型のあなた〉

ラッキーアイテムは白米。はたのう産のご飯を食べると健康運 up!

〈AB型のあなた〉

ラッキーアイテムは黄色い花。黄色いパンジーで玄関先をかざると金運 up!

以上、各料による『はたのうナウ』でした。この学科も、こんな状況だからこそ、知恵を絞って授業や実習を行っています。コロナ禍であっても、種は芽を出し、命は育まれていきます。これからどうなるんだろう？と思いがちですが、今できることはなんだろう？、自分にできることはなにかあるんじゃないかと一歩を踏み出す、そしてまた、一歩踏み出す。その繰り返しこそが未来を創る。農業高校って、きっとそういうことを学ぶ場所なんですね。来年のはたのう市場やはたのう祭では、きっと皆様にお会いできると信じております。その日を迎えられることを願っています。